



都志見新聞

(医) 医誠会都志見病院
<http://www.tsushimi.jp>

発行部数 600部
発行月 1, 4, 7, 10月
都志見病院 広報部

県央・県北3病院合同緩和ケア研修会

10月5日-6日、長門総合病院にて緩和ケア研修会が開催され、当院からは10名の参加がありました。



参加者の声

ファシリテーターの皆様のおかげもあり、素晴らしい研修会だったと思います。ロールプレイはなかなか楽しかったです。北村義則(外科医師)

自分の職種だけでなく、他職種の分野の勉強ができたので今までの緩和ケアカンファレンスで分らなかったことも理解できた部分があり、とても充実した2日間でした。齋藤 亨

ロールプレイで難治性がんである告知を受けた患者役を演じた時、とても辛く、残していく家族の事ばかり考えました。病気と闘う患者様の気持ちに今まで以上に寄り添い自分に出来る事を常に考え行動に移して行きたいです。鈴木芳与(M)

専門的知識をもって患者、家族にケアを提供し、寄り添い支えることを自己の課題として邁進したいと思います。右田浩子(看護師)

研修会に参加し、普段何気なくIC(インフォームドコンセント)に付き添っていた自分がありました。ロールプレイで、それぞれの役割を経験し医師の視線が患者・患者家族の安心に繋がることを痛感しました。竹之内恵子(看護師)

ロールプレイで医師側・患者側の立場に立ってみて医療従事者のノンバーバル(言葉によらない)なコミュニケーション技術がいかに大切であるのか

定義や目的について改めて認識することができました。ロールプレイでは医師の大変さや患者・患者家族の思いを汲みとってのやり取りを経験しました。芦谷多美子(看護師)



ターミナル期の患者・家族と接し声かけの難しさを痛感していたので、参加してそれぞれの立場を経験できたことで気持ちの理解が深まったと思います。野村陽子(看護師)

自分の知識・認識不足を痛感しました。グループワーク、ロールプレイと大変貴重な体験をする事が出来ました。岩本成子(看護師)



緩和ケアに必要な知識・ロールプレイでコミュニケーション技術を学ぶことができ、まずはそばに寄り添い話をしっかりきくことが大切だと改めて感じました。また、様々な職種の連携を図り、患者様と家族の療養環境を整えていかないといけないと思いました。大蔵真由美(看護師)

第2回 出前講座

”がん”について知っておこう

都志見病院の第2回出前講座を7月26日(金)見島にて開催しました。海開き翌週、夏祭りの前日でもあり夏真っ盛りでした。今回、見島での開催を企画いたしましたのは、地理的にも時間的にも通院や検診、講演会等に来にくいことに加え高齢で移動しづらいという方々にこちらか出向いてお話をしたいという思いからです。

約20年前に手術をした思い出に残る患者さんや最近大手術を受けられ順調に経過し見島に帰られた患者さん、そして残念ながら助けあげることができなかった患者さんやその家族の方を思い浮かべつつ講演会を計画しました。出前講座は11名の委員によって、計画立案からはじまり会場手配、広報等の準備から当日の会場設営、講演、会場整理・後始末、後日の反省会等によって成り立っています。そのなかから当日の協力スタッフとして12名の参加を得、見島に1泊しました。このような職員の一致団結した取り組みは病院運営の中で重要であると感じました。

講演はまず、知っ得、納得「がん治療」と題して山口県・萩のがん治療の現状について、続いてがんの薬について、最後にがん検診についてわかりやすく解説いたしました。当日見島ふれあい交流センターにお越しいただいた方は22名でしたが、いくつかの質問や入院・療養に関する相談をいただきました。直接相談を

いただいたケースは後日当院へ入院していただきました。講演会後には、会場に来られていた方やお知り合いの方々がエコー検査や胃カメラ、大腸検査等に多数来院されました。直接訴えることの重要性を実感いたしました。今後ともこの取り組みを継続したいと思っています。



最後に、私事ですが旅館に面会に来ていただいた患者さんご家族、そしてご自分の船で職員ともども釣りに誘っていただいた患者さんの気持ちの熱さには感激しました。

「ひと」と「ひと」のふれあいが、へき地・地域医療を支える原動力になると思っています。

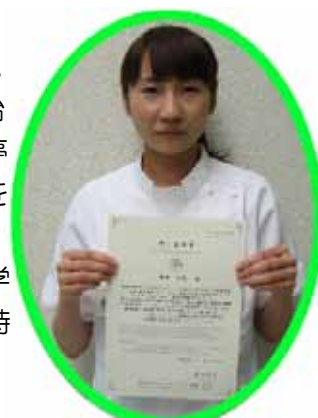
文責 山本達人

このたび、日本リンパドレナージスト協会におけるMLD/CDT技能者(リンパ浮腫)養成講座を修了しました。

MLDとは、manual lymph drainage の略で用手的リンパドレナージといえます。CDTとは、combined decongestive therapy の略で、複合的理学療法といえます。MLD/CDTは、リンパ浮腫の患者さまが治療、援助の対象となります。がんの治療において手術でリンパ節を取り除いたり、放射線治療によってリンパの流れが停滞することで、生涯にわたり腕や脚がむくむことがあります。このむくみのことをリンパ浮腫といえます。

研修は北九州市で行われ、今年の2月から8月までの間、54時間の解剖・生理学講義、乳がん、婦人科がん、緩和ケア、リンパ浮腫の治療方針と治療講義、120時間のMLD/CDT技能セラピートレーニングを受けました。

今後は、リンパ浮腫に悩んでいる患者さまに対し、医師の指示のもとに治療、援助ができるよう頑張りたいと思います。



作業療法士 原田佳奈



患者サービス向上委員会からのご報告



集まれミニ運動会

“集まれミニ運動会”9月25日(水)14時から東1階待合室で開催しました。患者様をはじめたくさんのご参加、ありがとうございました。

開会式
準備運動は氷川きよしのズンドコ節



応援合戦 赤組に続いて白組



玉入れ競争



白組の勝ち!!



借り物競争
“はっぴを着て”
“ボールを持って”



いや～
楽しかった
d(*^v^*)b

ボールルー



メダル贈呈



萩夏祭りヨイショコショパレードに参加しました



毎年恒例の萩夏祭り「市民総踊り ヨイショコショパレード」に参加しました。

総勢約74名の職員が、萩市のメインストリートで午後7時50分から午後8時15分まで踊りました。

沿道の方々から、たくさんお声をかけていただき、参加した職員も楽しいひとときを過ごしました。



〔災害〕 萩市記録的大雨の災害

平成25年7月28日 萩市の東部で猛烈な大雨を記録しました。

3時間の間に7月の月降雨量の平均値(281.6mm)を上回る301.5mmを観測する記録的な豪雨となりました。

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

7月31日から萩市医師会は、輪番で医師を派遣し、小川小学校で診療に当たりました。公益社団法人山口県看護協会は、県内の災害支援ナースを派遣し、地域住民の方々やボランティアの方々の健康診査・相談に応じました。

山口県看護協会の萩支部は、医師会の医師に同行し診療介助と、社会福祉協議会の要請でボランティアの方々の救護活動を2週間行いました。猛暑の中、住民の方々やボランティアの方々が熱中症になられ病院に搬送された方がありました。

今回の未曾有の災害時の対策には多くの課題がありました。災害拠点病院として検討し、今後の活動に活かして行きたいと思えます。



氾濫時の流木やゴミが橋を覆う



登り棒に生垣を乗り越えて軽自動車突き刺さっている



ボランティアセンター内の看護協会救護所風景



ボランティアの足洗い場所



足元がきれいになったら手洗い



手洗い後オシボリタオルで顔などの汚れを落とす



イソジンガーグルでうがい

居宅介護支援事業所メンバー交代

9月よりケアマネージャーとして居宅介護支援事業所に配属されました木村恵子と申します。歳を重ね様々な疾患や障がいを負うことになっても、いつまでも住み慣れた家で、自分の望む暮らしが出来るようお手伝いいたします。まだまだケアマネとして勉強の途中ですがよろしく願いいたします。



ケアマネ
木村恵子



消防署見学



10月12日(土)
10時~11時

見学にきてね!

敬老の日 手紙を出したよ



イベント予定

11月/リトミック参観 12月/クリスマス会

園児募集中!

働くお母さん・お父さんを
サポートします!



くすのき保育園は当院で働く職員が子育てをしながら、安心して仕事を続けていけるよう、働きやすい環境づくりを整備するために開設された保育園です。



見学希望・資料等お気軽にお問い合わせ下さい。連絡先/ TEL 22-2811 総務課 岡